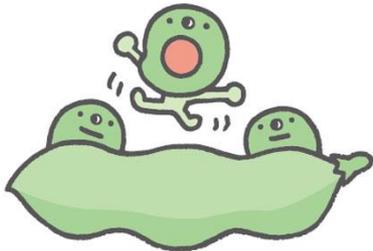


# 上手な医療のかかり方を 広めるための懇談会

## 当会の取り組みについて



一般社団法人  
知ろう小児医療守ろう子ども達の会

# 立ち上げたきっかけ

- 待合室に溢れかえる子ども達
- 『寝ないで24時間働き続けるパイロットの飛行機に子ども達を乗せたいでしょうか？』  
小児科医の友人からのメール
- 小児は入院の必要がない軽症患者  
9割以上



A woman with dark hair tied back, wearing a light-colored top and a beige scarf, is seated at a table. She is holding a sleeping baby in her arms. The baby is wearing a red and white striped shirt and a blue blanket. The woman is looking down at a document on the table, holding a pen. In the background, another person is partially visible, also looking at a document. The setting appears to be a meeting or a consultation.

子どもの病気のことを  
何も知らずに親になる



病気を習う機会がない！  
抱っこも初めて・・・

母親学級・乳児健診で親が知っていて  
当然の子ども  
の病気を  
知る機会もないまま、親になる



軽症・重症だからではなく、  
心配だから受診



知ることが大切！



# 活動 3つの柱

## ①乳幼児の保護者へ

子どもの病気を学ぶ講座を開催  
メルマガ(子どもの病気やコラム)を毎月配信

## ②自治体への働きかけ

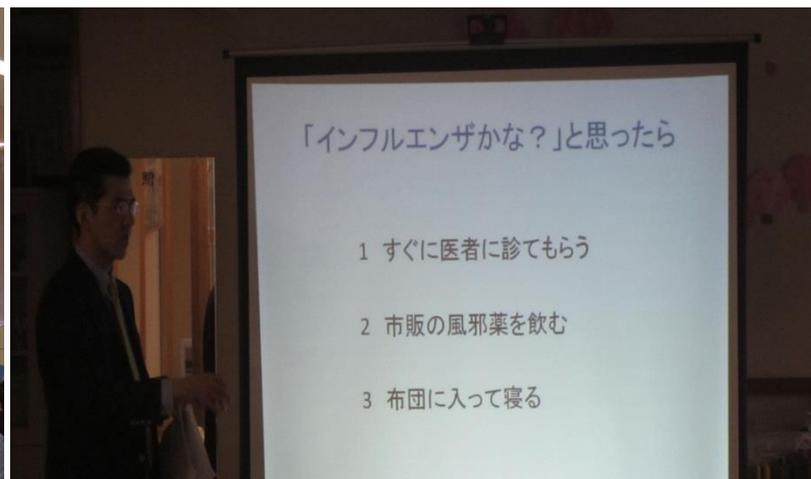
両親学級、乳児健診での勉強会と、小冊子の配布を提案

## ③よりよい医療環境をめざして

小児医療の厳しい現状の改善にむけ、勉強と働きかけ



# 父母にむけて子どもの病気を学ぶ講座を開催



# 小児科医から父母へ 「講座でお伝えしていること」

- 救急にかかるべきとき  
    ※必要は時はすぐに救急へ
- 子どもの病気とその対処法（熱・咳・下痢・嘔吐）  
    ※そして、家で様子を見てよい時を知る
- 予防接種について
- 地域の医療の現状

子どもが夜間、病気の時  
落ち着いて親が家でみていられ  
るようになることで、子どもも  
親も先生も夜はゆっくり休む  
ことができるように・・・



## 続けた活動・実績

**活動年数** 11年半

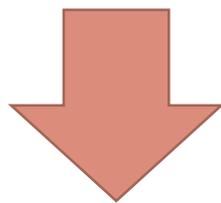
**講座開催** 150回

**受講者数** 5000人



# 医療に、正解はない

- $1 + 1 = 2$  のような正解はない
- ひとりひとりの身体、体質は異なっている
- 医師は、医学という長い科学の歴史と、いま目の前の患者とで合っているものを選びとっている。

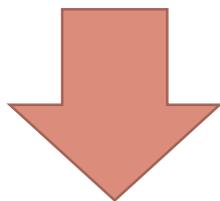


患者の参画が必要なのです！！！！



# 医療はどんどん進化しています

- 日々研究・臨床を重ね研鑽⇒発展しています
- ひとりひとり異なるからこそ 安易に言えない
- 子ども3人・・・子育てサークル年間何千人・・・
- 医師は毎日100人～200人×30日×365日・・・



症状・診断・・・×



# 受講者の声

心配がないと思われる症状のときは  
**休日や夜間に駆け込むのではなく、**  
**翌日、かかりつけ医に**みてもらうまで  
家で様子を見ようと思った。



# 受講者の声

子どもがかかる病気、対処法を  
教えてもらい**心の準備ができた。**

**様子を見ることの大事さ**がわかった。

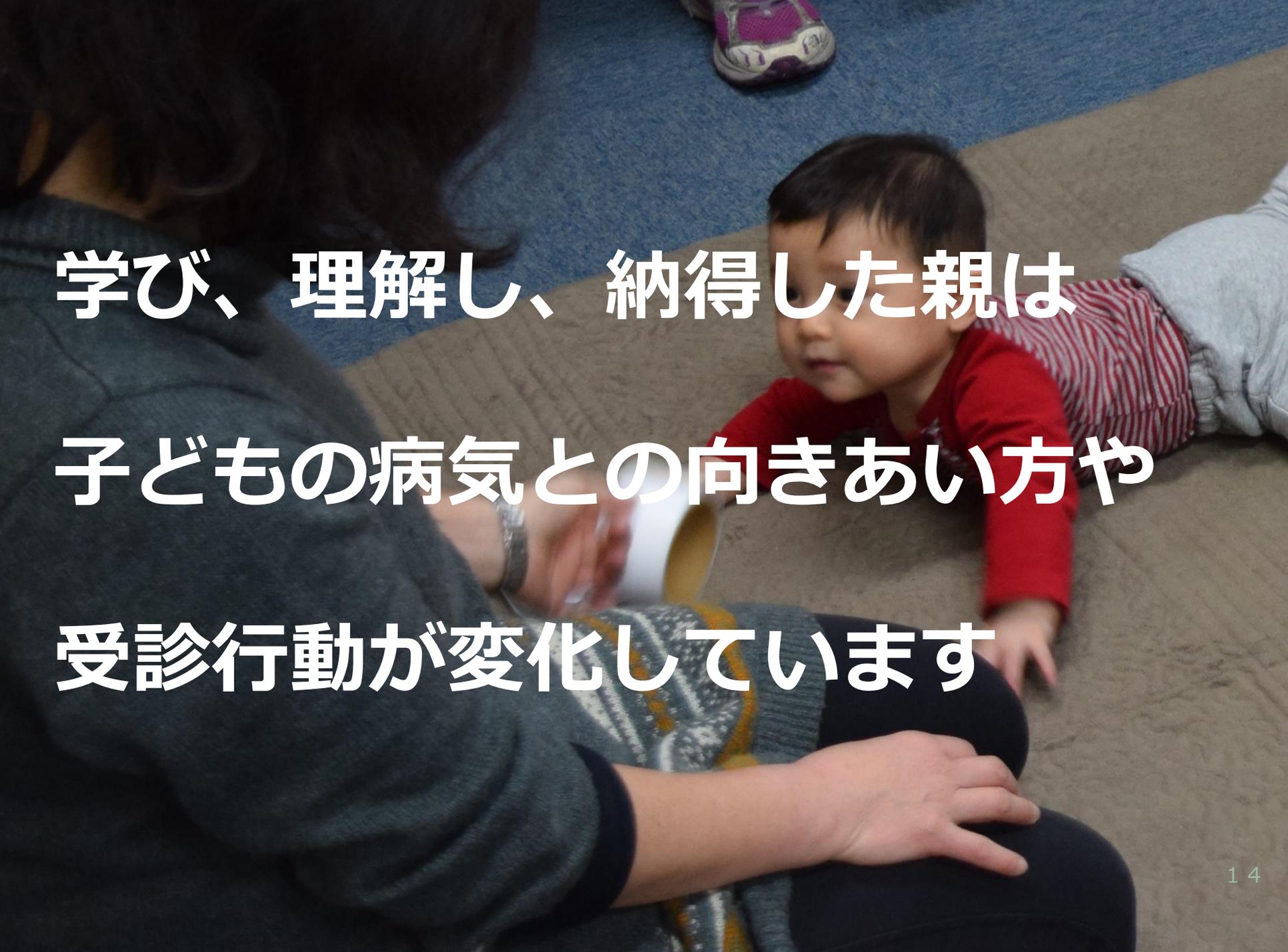


# 受講者の声

**医者任せにしていたことを反省します。**

**長い目で見て医療全体に必要な話だ**と  
思いました。





**学び、理解し、納得した親は  
子どもの病気との向きあい方や  
受診行動が変化しています**

本当に

伝えていますか？

- ある県のシンポジウム

深刻な医療環境、過酷な労働環境  
行政、医療者⇒市民への不満

「夜に軽症者がたくさん来て困る・・・」

- 「もう、疲れました。」

毎日100人の患者、次々と生まれる・・・



道徳ではない 科学的な裏付けのあること

•非難したい？責めたい？

⇒NO！！！！

耳をふさいでしまう・・・

良心に訴えかけない 善意に頼らない

× 救急車は本当に必要な人のために

○ 救急車の到着は平均8.5分です。

こういう時に、救急車を使ってください。



# 大切なポイント

## あなたの命を守るため



# 責めない

知らないことは、悪ではない ⇒ 大多数の関心

(例) 予防接種 効果と副反応  
定期化され、水疱瘡や細菌性髄膜炎激減  
「事実を伝える」



## どんなボールなら受け取れる？

具体的に何をすべきか、何に注意をすればよいか。

例：巨峰などのつるっとして丸いものは、注意。

○ 巨峰は、小さく切って与えよう。

× 小さくて丸いものに、注意！

わかりやすく！！！！



# お金のかかる

啓発、とは大きいことを一度やっておしまい、  
ではない

お金はかからない。けれど、手間はかかります。  
定期的に、継続的に、繰り返し、繰り返し・・・

持続的に伝えられるよう仕組みを変えていく



# 同じエネルギーをかけていますか？

「作っておしまい」ではない！  
作るまでの労力＝作ってからの労力

ひとに届いて初めて、作った！ある区の実例

良いツールは、たくさんあります！！！！



我が子を真剣に思う姿勢を力に、  
心配が怒りに変わらぬように・・・

- 信頼できる医療者の支えが、子育てを楽にする
- 医療にゆとりがあることで、子育てにゆとりが生まれる
- ゆとりのあるところに、優しさがうまれる

希望にあふれたまぶしい存在である親子  
を温かく見守る輪



活動を通して・・・  
どこか一方からの努力ではダメ

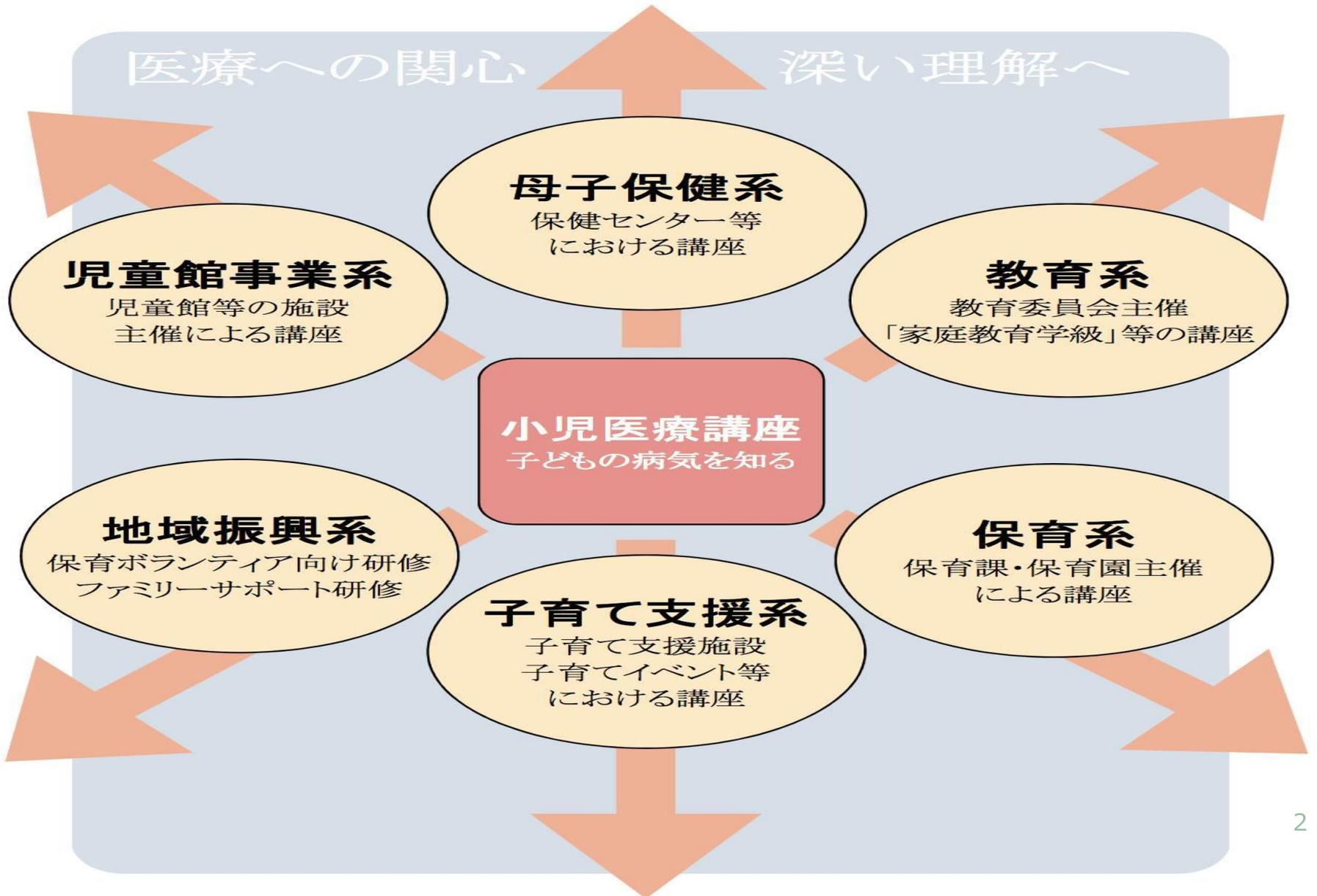
医療者、国、行政、企業、メディア、市民

ありとあらゆる協力で

本音で話すことで道は拓けます



# ありとあらゆる機会を使って、伝える



# 課題

- 自治体で！
- ⇒やっています！！！！

【自治体向け】  
医療のかかり方講座 実例マニュアル

小児医療を入口として  
高齢化社会を支える医療の礎を築くために



一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

自治体向け 小児医療講座 実例マニュアル

1

- 一方、伝えたい保健師さん達
- 全国どこでも当たり前前に学べるようになるために・・・



一般のかたに医療をお伝えするのに、  
もっとも効果的な時期とは・・・？



小児医療を知ることが、  
高齢化社会の礎を築く



# ご清聴ありがとうございました

必要なひとが必要な時に  
必要な医療を受けられるように・・・

